

## 説教要旨「値打ちなき者なれど」

ルカによる福音書 3 章 15～20 節

人々は洗礼者ヨハネに対して、「もしかしたらこの人がメシア（救い主）ではないか」という期待を持ちますが、ヨハネは、自分はメシアではなく、その到来の備えをし、主の道を整える者だ、と語りました。「わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない」（16 節）“履物のひもを解く”というのは、奴隷の務めの中でも最もいやしい仕事とされていることです。私の後から来る、私よりも優れた方と比べたら、私は奴隷よりもなお卑しい者でしかない、とヨハネは言うのです。

ヨハネは領主ヘロデの悪事を指摘し、責めた故に捕らえられました。領主ヘロデが、異母兄弟の妻であり自分の姪である女性と結婚したことを、これは神様の前に正しいことではない。そうヨハネは訴えた結果、ヨハネはヘロデに囚えられ、殺されることとなります。大きな権力をもつ領主ヘロデの罪を公に非難するのですから、その結末は目に見えています。だからといってここで見て見ぬふりをするのはヨハネ自身が語ってきた悔い改めを否定するようなものです。ヨハネは悔い改めにふさわしい実を結ぶ、その有り様を身をもって示したとも言えます。

ヨハネは「ではどうすれば良いのですか」と尋ねるわたしたちに、権力者の罪を暴き立てるなどとは言いません。「二枚持っている下着を、持たない者に分けてあげること」、徴税人に「規定以上に取り立てるな」と。兵士に「誰からもゆすり取ったり、だまし取ったりするな」と。決して高いハードルではない。ただ目の前の出来事に、与えられている務めに、誠実でありなさい。そう言うのです。

(2018・4・22 説教者：稲垣真実)